

〔団体の概要〕（NGO/NPO用）

団 体 名	ぎのわん ちのうみ 宜野湾の美ら海を考える会		
所在地	〒900-0032 沖縄県那覇市松山 1-1-23 TEL: 098-868-2862 FAX: 098-868-2862 E-mail: なし		
ホームページ	なし		
設立年月	平成 9 年 7 月 *認証年月日（法人団体のみ） 年 月 日		
代表者	香村 真徳	担当者	具志堅 宗弘
組 織	スタッフ 4 名（内 専従 1 名）		事務所 なし
	会員制度 （あり）	正会員 名（内訳：個人 名 / 団体・法人 名） 賛助会員 名（内訳：個人 名 / 団体・法人 名） その他会員 26 名	
設立の経緯	平成 9 年 7 月 20 日（海の日）魚介藻専門家、生物の教職者ら出席者 11 名、委任者 10 名が会則を検討・承認して「美ら海会」を結成した。		
団体の目的	「サンゴ礁との共生」を目的とし、サンゴ礁をサンゴ礁として利活用する。今日まで都市近郊のサンゴ礁は埋め立てか養殖場以外に利用されていない。		
団体の活動 プロフィール	「サンゴ礁との共生」を目的とした会則を承認し、「美ら海会」を結成(97/7/20)。宜野湾港防波堤外側サンゴ礁の生物相・底生生物分布調査を実施（98～99）。サンゴ礁生態のパネル・写真展を宜野湾市内全小中校で行なう（98～99）。大阪学院大学教授三輪信哉氏の講演会を開く（99/2/28）。宜野湾港マリーナ沖サンゴ礁の動植物図鑑を刊行（99/9/28）。宜野湾市、近郊市町村の海愛好家に呼びかけ、マリーナ沖サンゴ礁の利活用検討協議会を 4 回開き、海浜緑地を廃止、自然サンゴ礁園の設置がよいと提言をまとめる（99/12～00/7）。県港湾課では 04 年度までに海浜緑地の必要性を検討する（01/10/17）。		
財 政	活動事業費 （平成 13 年度）	1, 000 円	

団体・企業名	宜野湾の美ら海を考える会	担当者名 具志堅 宗弘
--------	--------------	----------------

〔政策提言の内容〕

＊政策分野・手段の番号は参考資料をもとにお書きください。

政策のテーマ	自然サンゴ礁園の設置		
政策の分野	番号 ④	自然環境の保全	
政策の手段	番号 ⑧	環境教育・学習の推進	
① 政策の目的			
自然サンゴ礁園は、都市近郊にあって多種多様な生物が生存し、海の自然と触れ合うことのできるサンゴ礁を学習の場やいこいの場として利活用することを目的し、次世代に継承する。			
② 提言を行うこととなった背景および現状の問題点			
復帰当時海はニューフロンティアと位置付けられ、今日まで実に普天間飛行場の数倍のサンゴ礁水域が陸化されてしまった。私たちは4回のサンゴ礁利活用検討協議会を経て海浜緑地廃止と自然サンゴ礁園設置を提言したが、県港湾課は港湾整備計画を盾として両者の検討を先送りしている。自然サンゴ礁園は公共事業ではなくサンゴ礁をそのまま活用するもので、海浜緑地の廃止そのものであり、国庫補助制度を対象とした港湾計画とは全く関係ない。			
③ 政策の概要			
1997年の国際サンゴ礁イニシアティブの沖縄宣言は、サンゴ礁の保全と利用を国際社会に要求した。だが、その成果は都市近郊にあっては全く見えてこない。都市近郊ではサンゴ礁は全て埋め立てと養殖場の標的となった。本土における里山のように、都市近郊のサンゴ礁をサンゴ礁として残し利活用することが必要と思われました。 宜野湾港マリーナ沖サンゴ礁は小さなサンゴ礁ではあるが、広大な埋め立て事業が進められた西海岸地区にあって海の自然が残された唯一の場所です。多種多様な生物が生存しており、都会の人々が海の自然と触れ合うことができ、次世代に継承しなければならない貴重なサンゴ礁であります。 2000年には宜野湾市、近郊市町村の海愛好家に呼びかけ、サンゴ礁利活用検討協議会を4回開いた。初回は「こんな海がいいな」をテーマにワークショップを行なった。最終回には、宜野湾市の後期基本計画には海浜緑地を位置付けてない旨市長名の回答があったので、第3回協議会の利活用アンケート調査結果を検討し、自然サンゴ礁園設置の結論を得て提言した。			

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートをつけてください）

自然サンゴ礁園は現行法による前例はないが、次ぎの予定で進める。

- 1.防波堤外側サンゴ礁の県港湾課海浜緑地計画を廃止する。（当該水域は県港湾課が管理）
- 2.児童生徒の自然環境教育の場として、水域の利用目的を指定する。（サンゴ礁園の設置）
- 3.表示板を設置してサンゴをはじめ当該水域の生物多様性を紹介する。
- 4.サンゴ礁の自然観察で潮だまりの果たす役割が大きいので、サンゴ礁干出部に人工潮だまりを設け、サンゴの移植等を行なって、海中小動物がその新しい生活空間にどのように適応していくかを知るための実証実験を行なう。オニヒトデは見つけ次第駆除する。
- 5.将来的に植物園と同様に観察ルートを取り入れる。正式名称は宜野湾市が決める。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実施主体：県港湾課

提携・協力主体：県自然保護課、県教育庁、宜野湾市。

注：県自然保護課では2001年当地で自然観察会を主催し、今年も継続する。

⑥ 政策の実施により期待される効果

都市近郊のサンゴ礁は都市の粘膜のように環境的にはもろい。そのため都市拡大の格好な標的となった。そこで私たちは社会経済的に埋め立てに勝るサンゴ礁の持続的な利用方法を探索し、手法の一つとして自然サンゴ礁園の設置を提言した。

自然サンゴ礁園は利用可能な時間帯が春夏の干潮時に限られるという弱点をもつが、多様性、維持管理においては陸上園に劣らない。沖まで行かなくても自然環境の中を泳ぐカラフルな彩魚を見ることが出来るサンゴ礁は優れた観光資源であり、自然保護が経済振興の手段となる。

⑦ パンフレット等添付資料名

- 1.県港湾課の海浜緑地計画。
- 2.宜野湾港マリーナ沖サンゴ礁の動植物図鑑。